

【今回のテーマ】

服の寄贈レポートが届きました。
みんなで集めた服が届けられ、実際に難民の方々が手にとる様子はとても感慨深いですね。役目を終えた服にもまだまだ大きなチカラがあります。みんなのチカラで難民の方々に笑顔をお届けすることができました。素晴らしい!



学校から送った服はまず日本にある倉庫に運ばれ、カテゴリーごとに大きなカゴにまとめられます。



倉庫のスタッフが機械を使って50kgあるボールをつります。現地に届けられるまで雨にぬれたり途中で汚れたりしないようにして、船で服を必要としている世界中の人々へ届けられます。



ウガンダ



ウガンダ北部のビディビディ難民居住区へ。

服を届けたスタッフさんのお話



両手いっぱい服を受け取ってくれた方や、新たな服に身を包んだ子どもの笑顔を見たときに「服のチカラ」の偉大さを感じました。みなさんからお預かりした想いのこもった服を通じて、世界中の人たちに笑顔をお届けしていきたいです。

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト フォトレポート

47都道府県より合計744校が参加し、約73万着の回収ができたそうです。集まった服は、国連難民高等弁務官事務所とユニクロが力を合わせて、服を必要としている難民・国内避難民の子どもたちに届けられています。

UNHCRの物資配布拠点へ。たくさんの方が服を楽しみに並んでいます。受付で世帯の人数などを書いたチケットをもらい、そのあと服を受け取ります。



最後に



命を守る。個性を表現する。

みなさんが集めてくれた、たくさんの「服のチカラ」。国を越えて、現地の子どもたちの生きるチカラになっています。このレポートを見て、そのことを感じてもらえたら嬉しいです。

困っている人たちのため、自分たちの明るい未来のため。この活動をヒントに、自分にできることを続けていきましょう!

本当にありがとうございました!

*届けよう、服のチカラプロジェクト 事務局



会場に訪れた人々は、みんなが集めた服を嬉しそうに受け取ってくれました。「新しい服を着ると、子どもが自信を持って学校にいける」「服が届けられるようになって皮膚病が減った」彼らの言葉から、服のチカラを感じます。

ファーストリテイリングから届いた感謝状とフォトレポートの原版を、校長室前に掲示しています。